

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果では、国語の平均正答率は国の平均よりは上回っているが、都の平均と同じである。中でも「書くこと」の分野の正答率が低く、記述式の問題では無回答率も高い。算数の平均正答率は、国の平均よりは上回っているが、都の平均よりは下回っている。その中でも「図形」の分野の正答率が低い。適切な言葉や数を用いて自分の考えを記述するところに苦手意識がみられる。  
 ○意欲的に学習に取り組む児童が多いが、既習事項の定着や、基礎的・基本的な内容についての定着に個人差がある。  
 ○語彙力が豊かではなく、自分の考えを具体的・論理的に表現することが苦手な児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○自分の考えを友達同士で交流する場面では、対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる指導を工夫する必要がある。  
 ○語彙の習得、文章構成の理解等「言葉にこだわる指導」、考えの形成や記述、共書き等「書くことにこだわる指導」、教科書の文章を読む、読書活動等「読むことにこだわる指導」の工夫を行っていく必要がある。  
 ○どの教科においても、低・中・高学年という2年間の系統的な指導を教員間で共通理解を図る必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「板橋区 授業スタンダード」に基づいた授業を行い、児童に基礎的・基本的な学力の定着と、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。また、読み解く力の育成を国語の授業のみで育てるというものではないことを理解し、日々の授業内で育成していく。  
 ○児童が自分で課題発見・課題解決する時間を確保する。  
 ○友達と自分の考えを交流してお互いの考えのよさに気づき、よりよい考えを創り出す時間を確保する。  
 ○ICT機器や思考ツールを効果的に活用して、「分かる できる 楽しい」授業を進める。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科の授業において「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。 ○OJTを通して板橋区授業スタンダードへの共通理解を図る。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面をつくる。 ○「INPUT→THINK→OUTPUT」の活動を意図的に授業内に設定する。 ○OJTを通して「読み解く力」についての共通理解を図る。	○各教科等の学びを総合的な学習の時間と関連付け教科横断的な単元を組み立てる。 ○「郷土愛の育成」の観点からどの学年でも「地域を学ぶ」「地域を通して学ぶ」ことを重視する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアでは、授業参観の際、授業のどの場面で「読み解く力の育成」を図っているのかを明確に指導案に示す。また、指導案検討を小・中学校教諭で行っていくことで、義務教育9年間を意識した指導の充実を図る。 ○9年間を通した単元配列表を活用し、系統的にキャリア教育の実践を図る。また、iCSを活用し、学校と地域の方々、学校と地域の商店街等との連携を図り、働くために学ぶことへの意識や自己肯定感や自己有用感を高める活動を推進していく。	○総合的な学習の時間を中心に、探究的な学習「課題の設定→情報の収集→整理分析→まとめ・表現」を行う。また、この学習の過程を繰り返し行うことで、探究的な思考の育成を図る。 ○学びのエリア研修では、総合的な学習の時間の授業公開を行う。授業の成果と課題を共有し、義務教育9年間を意識した指導の在り方、総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントの質的改善を図る。	○本校は、ICT機器の活用率が板橋区の中でも高い。引き続き、1日1回はICT機器を授業内で使う場面を設定する等、継続したICT機器の活用を図る。 ○アンケート機能やデジタルホワイトボード機能、ミライシード等を効果的に活用し、個別最適な学び、協働的な学びを実現していく。